

平成29年度 運営に関する計画

【最終評価】

学校教育目標

人間尊重の教育を基盤とし、個性を生かし、豊かな人間性を
育て、たくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する。

学力の向上

基礎・基本の定着

道徳心・社会性の育成

豊かな人間性や生きる力を育む

健康・体力の保持増進

健康な生活習慣の確立、食育

特別支援教育の充実

生徒の自立や社会参加に向けての支援

大阪市立墨江丘中学校

平成30年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・H28年度実施の「全国学力・学習状況調査」における成績、調査結果から見られる、次のような現状から改めて課題を設定する。
 - (1) 国語においては、すべての項目で大阪市平均を上回るが、全国平均に比すると改善も見られたが、まだ、A. B問題とも1ポイント程度と若干低い状況にある。さらなる言語活動の充実を意識した授業展開や習熟度別少人数授業等で、生徒の基礎的学力向上を図り、すべての項目で全国平均値に並ぶまたは上回りたい。
 - (2) 数学においても、すべての項目で大阪市を上回っており、全国平均値をも上回る状況であり、特に指導効果が見られる。習熟度別の授業の効果を今後も期待し、質問項目での公式や決まりでの根拠理解に劣りが見られる、論理的思考の部分での改善を意識し、授業展開では、活用力、応用力が身につく授業でしっかり力をつけさせる。
数値的には、ポイントでさらに、5ポイント程度は、全国平均値を上回っていたい。
 - (3) 学習状況、意識調査の結果からは、学力向上の観点からは全国平均に比して劣りが見られる復習時間の不足について、その定着および時間の確保をさせたい。また社会性、規範意識の観点では、規則を守ると回答した割合が全国平均値を上回っているため、さらに100%へ近づくよう全体として向上させる。また社会性での仲間意識では、いじめの否定、友達への協力など、この点でも100%を目指す。
- ・H28年度実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における成績、調査結果から見られる、次のような現状から改めて課題を設定する。

前年に比し、ほぼすべての項目で全国平均を上回り総合ポイントでも全国を上回る。ただ、意識調査では、運動やスポーツを苦手と考える生徒の割合が依然高い。その観点から、運動、スポーツの楽しさを、授業や部活動を通して実体験させ、意識向上を図りたい。授業では、苦手意識の解消のため、自らの体育的課題を設けて、学習と同じように目標を明確にさせる。

また、部活動では、運動部に限らず、学校全体の活性化に向けて、元気あふれる学校ムードを作り上げる。部活動加入率を5%上げ、90%以上を目指す。
- ・H28年度実施の「大阪市英語能力判定テスト」における結果から見られる、次のような現状から改めて課題を設定する。

ほぼすべての項目（語彙、英文構成、読解、リスニング）を平均すると大阪市平均値をと同じ結果が出ている。さらに各項目ごとには見直しを図り、さらに基礎、基本固めを確実にやる。今後の課題としては、この学力を、実践的な英語力、グローバル意識の高まりなど現在、行っている国際交流、英検対策など英語イノベーション事業に結びつく、実践的な英語力の向上につなげたい。そのためには、身近に英語があるような環境作り、客観テスト（英語能力試験など）の結果向上への発展など、具体策を講じる。
- ・総合的な視点からの学校課題

本校における現状をまとめると、学習に対する意識度は全般に高く、それを持続した目標意識とさせたい。運動、スポーツに対する意識も高いので、学校全体としては、いわゆる文武両道を通じた総合的な学力、生活力を持った生徒育成を目標とし、学校経営の中で、学習活動の充実とともに部活動の活性化も、ぜひ、図りたい。部活動の活性化は学力向上と強く連携していると考え。また、生徒意識の中では、互助的、協力的精神の育成は学校内の友人関係に限らず、地域を支えて下さる皆さんにも向けた幅広い社会性を持ったものでなければならない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を100%となるよう目指す。（97.3）
- 平成32年度の全国学力・学習状況調査における「人が困っているときは進んで助けていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上になるよう目指す。（81.6）
- 平成32年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を100%となるよう目指す。（93.6）
- 平成32年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上となるよう目指す。（85.0）
- 平成32年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上となるよう目指す。（84.0）
- 平成32年度の学校アンケート（保護者対象）における「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいますか」の項目について肯定的回答の割合を85%以上となるよう目指す。
（77.0）

・部活動の入部率は運動部、文化部を合わせて85%以上である。この高い数値を維持するよう、部活動の活性化を図るため、各部で使用する用具、器具等の充実に努め、地域との交流も深める。

<基本概念>

学校生活の安定化は、全ての学校活動の大前提である。即時的に生活指導、生徒管理を厳しくすることではなく、常に物事の善悪を明確にすること、折々のけじめがつけられること、こういった基本的、恒常的指導が学校安定の基礎固めとなる。この基礎はやがて、授業の活性化やクラブ活動の活発さとなって発展し効果を表す。この学校生活の安定化は、すべての学校命題である学力向上、体力向上に寄与することはいうまでもない。そのための取り掛かりとして子どもたちとのコミュニケーションの重要性、教師の信頼感の獲得は子どもに接する学校教職員にとって不可欠なものと言える。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成32年度の全国学力・学習状況調査における「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の項目について、肯定的回答の割合を60%以上となるよう目指す。（47.0）
- ・平成32年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を50%以上に向上させる。
（40.0）
- ・平成32年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。（81.9）
- ・平成32年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。（73.0）
- ・平成32年度末の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を80%以上にする。（67.0）
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成32年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を80%以上にする。（70.8）
- ・特別支援教育の充実—H32年度まで、さらに多様な個人に応じた指導を充実させるため、教育環境に十分配慮し、整った施設環境の中で、個人にまた個別に対応した学習、進路を保障していく。

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（中学校）

- ・平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・平成29年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回答の割合を95%以上にする。
- ・平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。
- ・平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を98%以上とする。
- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上とする。
- 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。
- 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- ・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- ・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率50%以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%程度減少させる。
- ・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率70%以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%程度増加させる。
- ・平成29年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力（筋力面）の平均記録を0.2ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・平成29年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を50%以上に向上させる。
- ・平成29年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を75%以上にする。
- ・平成29年度の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を70%以上にする。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成29年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を73%以上にする。

【その他―地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する。

4 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（中学校）

- ・平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合は100%に達した。効果的で即時的な対応ができています。
- ・平成29年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、さらに詰めて行きたい。
- ・平成29年度末の校内調査において、暴力行為の発生はなく、新たな不登校に発生も見られないので順調に経過した。

学校園の年度目標

- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、さらに詰めて行きたい。
- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上は、ほぼ達成した。
- 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合は85%で、目標90%以上に近づける努力をする。
- 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合は85%で、目標90%以上を継続する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- ・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- ・今年度のチャレンジテスト（3年生）については、ほぼ目標を達成しており、大阪府平均を全体でも上まっている。学習姿勢の維持を継続させたい。
- ・平成29年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるという目標はほぼ前年並みであった。引き続きの取組み課題とする。
- ・平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力（筋力面）の平均記録を0.2ポイント向上させるについては、結果が未着となっている。

学校園の年度目標

- ・平成29年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を50%以上に向上させるについては、今年度少しであるが上回った。引き続き必要性の指導に取り組む。
- ・平成29年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を75%以上にすることは、ほぼ80%となり改善が見られた。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成29年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を73%以上については、80%となり意識向上が見られた。読書活動の充実を図る。

【その他―地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かきた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する姿が見られた。

大阪市立墨江丘中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 平成29年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回答の割合を95%以上にする。 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を98%以上とする。 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上とする。 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいきますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。 <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率50%以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%程度減少させる。 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率70%以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3%程度増加させる。 平成29年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力（筋力面）の平均記録を0.2ポイント向上させる。 	B

学校園の年度目標

- ・平成２９年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を５０％以上に向上させる。
- ・平成２９年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を７５％以上にする。
- ・平成２９年度の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を７０％以上にする。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成２９年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を７３％以上にする。

【その他―地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について、否定的回答に対してその理由を問う設問を付加し、原因究明に努め、その項目の改善を図って行く。そのための具体策を明確化し、対策を講じる。 (基盤としての学校安心ルール)		B
指標 実施アンケートを改修し、新たな設問を設置し、学校が楽しくない理由を明記してもらい、取組み対策を立案、計画し、実施する。 実施状況の定着化を図り、その意義や効果を参加生徒アンケートなどから測定する。		
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 全校集会、学年集会等でいじめについての講話、指導を行い、啓発、啓蒙をはかる。 (いじめ・暴力行為等防止対策)		B
指標 全校集会、学年集会等でいじめについての講話、指導を学期に1回以上行い、啓発、啓蒙をはかり、根絶をめざす。		
年度目標の達成状況の結果と分析		
生活指導部		
①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（基盤としての学校安心ルール） 10月に実施された学校アンケートで「学校に行くのは楽しく充実していますか？」という質問項目で全校生徒の82%の生徒が楽しく充実していると答えた。否定的回答に対してその理由を問う設問を付加できなかったが、来年度に向けて、原因究明に努めていきたい。		
②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（いじめ・暴力行為等防止対策） 定期的に集会で学年に応じた課題（いじめ）について講話、指導を行っている。また、5月のいじめについて考える日の全校集会で講話、指導、12月のLINE会社による防犯教室でいじめの指導を行った。		
次年度への改善点		
生活指導部		
①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（基盤としての学校安心ルール） 10月に実施される学校アンケートで、否定的回答に対してその理由を問う設問を付加する必要がある。また、来年度は学校アンケートを実施する日程も調整する必要がある。		
②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（いじめ・暴力行為等防止対策） いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、人権・道徳教育部会と連携を図り、関連を持たせ指導する必要がある。また、いじめの手段が常に変化していくため、時代に応じた対策を模索する必要がある。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>〈国語科〉 国語に興味関心を抱くよう、親しみやすい教材を精選し、文章活動の中で言語力・論理的思考の向上・漢字の定着を図る。</p> <p>〈社会科〉 生徒たちが興味関心を抱くように教材精選をし、各分野において、基礎的な内容が理解できるようにするとともに、資料を読み取り、分析・判断した内容を適切に表現できるような課題に取り組む。</p> <p>〈数学科〉 生徒が興味関心を抱けるように、ICTなどを用いた授業を実施する。学習内容を繰り返し練習できる課題を与え、小テストを実施する。また、複数担当で行い、習熟度に応じた指導を実施する。</p> <p>〈理科〉 実験や観察だけではなくICTなどを用いた工夫した授業を行い、生徒の理科に対する興味や関心を持たせる。さらに、グループ学習などを利用し、自主性や協調性を学ばせる。</p> <p>〈音楽科〉 生徒たちが興味関心を抱く楽曲を選び、音楽記号、楽譜の内容などの楽典を理解できるように指導し、より大きな声で歌唱し、楽器を演奏する楽しみが感じられる指導に取り組む。</p> <p>〈美術科〉 美術に親しみを持つように教材精選をし、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。個性を生かした作品作りを目指し、それぞれの良さを味わえるよう取り組む。</p> <p>〈保健体育科〉 学校の教育活動(集会、各教科、道徳、特別活動、総合)と関連した集団行動の基礎を身に着ける。</p> <p>〈技術家庭科〉 生徒が興味・関心を持つような題材の工夫と班活動を中心とした学習形態により、生活に必要な知識、技能の習得に努める。</p> <p>〈英語科〉 生徒が興味関心を抱くよう、ICTなどを用いた授業を実施する。また、社会がグローバル化する中で、英語を実際に使用できるよう、スピーキングの機会を増やす。また、習熟度に応じた教材を使用し、個に応じた指導も実施する。</p> <p>〈特別支援教育〉 生徒一人一人の状況や学力を把握することにより、個に応じたきめ細やかな学習指導やICTなどを用いた授業を実施することで学力の向上を目指す。また、常に指導方法の研究を行っていく。</p> <p>〈教員研修〉 全教員が研究授業・相互授業参観を行い、教員の授業力向上に取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進・学校力UP ベース事業)</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>

指標

- 〈国語科〉 定期テストで作文などの記述問題を出題し、表現力を養わせる。3年間を通して常用漢字の定着を図り、個の能力に応じた漢字検定試験合格を目指させる。
- 〈社会科〉 夏季課題としてそれぞれの分野で新聞づくりに取り組ませる。基礎知識の定着を図るため、単元ごとを目安に、小テストや復習課題を計画的に課す。
- 〈数学科〉 関数や図形などの単元でICTを活用する。さらに、学習進度に合わせ課題を与え、定期的に小テストを実施する。また、年間総授業数の30%程度、習熟度別による授業を展開する。
- 〈理科〉 授業では、①各学年実験や観察の授業の機会を増やす。②アクティブラーニングを取り入れ、自主性・協調性を学ばせる。③ICT機器を用いて視覚的に理解できる授業を作る。また、定期的に小テストを実施し、基礎学力を身に付けさせ、70%以上の正解率を目指す。
- 〈音楽科〉 定期テストでの50%以上の正答率と実技テストにおける60%以上の正確さ。
- 〈美術科〉 文化祭や総合文化祭など発表の機会を年3回以上持つ。定期テストでの50%以上の正答率を目指す。他校の教師との研修会で、教材の研究を図る。
- 〈保健体育科〉 授業開きに集団行動を徹底する。集団行動が苦手な生徒にも学期に1回以上休み時間や放課後、個別指導を行い、集団行動の基礎を身に付けさせる。
- 〈技術家庭科〉 文化祭で全員の作品を展示する。授業内で実技テストを行い、進度の遅れている生徒には個別指導を実施し、生活に必要な技能を習得させる。
- 〈英語科〉 英語の基礎基本の定着はもちろん、3年間を見通して、スピーキング力、プレゼン力の向上を目指す。学期に1回はスピーチテスト、プレゼン作成・発表を行う。また、年間総授業数の30%程度、習熟度別による授業を展開する。
- 〈特別支援教育〉 在籍生徒の出席日数の増加をめざし、不登校生へは登校を呼びかけていく。抽出授業では一人一人の状況に応じた指導方法で基礎学力の徹底を図り学力の向上に取り組む。また、入り込み授業では学力の向上はもちろんのこと自尊心につながるサポートも意識的に行う。
- 〈教員研修〉 全教員が年1回以上の研究授業を行い、研究協議も併せて実施することで授業力向上に努める。また、相互授業参観を年2回以上おこなう。

年度目標の達成状況の結果と分析

③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

＜国語科＞

- ① 授業の目標を立てて積極的に取り組んだことで、基礎的な学力が定着してきた。
- ② 定期テストに作文を出題したことで、語彙力・記述力が着いてきた。

＜社会科＞

2年生の前期を週4時間にすることで、進度も順調である。
単元内ごとに定期的な小テストや復習課題を課し、基礎の定着の確認を進めることができた。
また、ICT機器を積極的に用いることで、生徒の興味関心を高めることにつながっている。

＜数学科＞

単元内ごとでの定期的な小テストの実施により、基礎の定着の確認を進めている。また、授業内での復習を繰り返し行うことにより、基礎的な学力が定着できている。また、授業でのICTの活用により、生徒の数学に対する興味・関心を育むことができている。

＜理科＞

各学年実験の授業を多く取り入れ、生徒の自主性・協調性を育ませ、体験的な学習ができた。また、ICT機器を用いて、視覚的に理科の面白さを伝えることができている。

＜音楽科＞

文化祭（合唱コンクール）に向けて協力し合い、発表をする喜びを知る取り組みを行っている。視聴覚機器を活用することで音楽の楽しさを伝える授業ができている。

＜美術科＞

校内の掲示版での掲示や文化祭、総合文化祭、造形展、中学校作品展など発表の機会を増やした。
美術室にエアコンがなく、夏期は教室でできる課題を工夫したり、冬期はストーブの管理が必要だったが、これからもさらに工夫していきたい。

＜保健体育科＞

授業開きに習得した集団行動を活かし、グループ活動を多く取り入れている。
グループ活動を通し生徒同士で一人ひとりの能力向上ができている。

＜技術家庭科＞

班活動を通して、生徒が興味・関心を持つよう学習を進めることができた。また文化祭展示に向け作品制作に取り組み、作品を展示することができた。

＜英語科＞

ICT機器を用いることで、発表やペアワーク、グループワーク等、積極的に授業に参加する意欲を高めることにつながった。また、スピーキングテストやプレゼン発表など、実際に英語を使用する機会も設けることができた。

＜特別支援教育＞

在籍生徒の不登校生への登校を呼びかけにより出席日数が増えた生徒もいた。抽出授業では一人一人の状況に応じた指導方法により学力も定着しつつある。

＜教員研修＞

研究授業に関しては、昨年度より年3回の学年別に行う研究授業の参観者数が増加。3回以上の相互参観を行う教員も多数になり、教員研修としての機能を果たしている。

次年度への改善点

③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

＜国語科＞

読解力をつけさせるため、授業に工夫する。また、ワーキングメモリーを鍛えさせるためにも、聞き取りテストを実施するなどして聞く力を高めたい。

＜社会科＞

授業進度に注意しながら、基礎学力の定着を図っていききたい。また、ICT機器を活用についても研鑽をつみ、より効果的な活用ができるようにしていきたい。

＜数学科＞

反復演習で、より基礎定着を図るとともに、習熟度に応じて基本的な内容・発展的な内容にさらに力を入れていきたい。3年生において、習熟度別による分割授業を実施していきたい。また、ICTを活用した授業により、生徒の数学に対する関心・意欲を育んでいきたい。

＜理科＞

実験の授業を増やし、体験的な授業を行っていく。また、計算問題や記述式問題が苦手とする生徒が多く、小テストなどをもちい、知識の定着、科学的思考の構築を目指す。

＜音楽科＞

親しみやすい楽曲を選択し、音楽に対する興味関心をよりたかめられる実践に努める。

＜美術科＞

昨年度よりも展覧会の機会が増えたことは良かったが、制作時間の配分にもう少し配慮が必要かもしれない。工芸的な課題に取り組む際の、道具の使用上の注意や管理などの研修を重ねていきたい。

＜保健体育科＞

集団行動の定着をもっと早い段階で習得し、早い段階でリーダーを育成し、もっと生徒主体の授業を作っていきたい。

＜技術家庭科＞

来年度は生徒にとってより伝わりやすく、わかりやすい授業づくりのためにICT機器を活用した授業に取り組みたい。また安全管理に努め、ケガの防止を図る。

＜英語科＞

習熟度別授業について改善する必要がある。年度初めに習熟度別授業での年間計画等を作成し、学年間で共有する等の工夫が必要である。

＜特別支援教育＞

在籍生徒の不登校生への出席日数の増加をめざし、登校を呼びかけていく。学力の向上をめざし生徒一人一人の状況や学力を把握することにより、個に応じたきめ細やかな学習指導やICTなどを用いた授業を実施することで学力の向上を目指す。いろんな障がいについての知識、理解を得られるよう教職員、生徒への周知徹底を目指した校内研修や学年での取り組みをしていく必要がある。

＜教員研修＞

行事の関係で2学期の研究授業や研究協議の参加者数が減少することと、研究授業が12月以降に実施する回数が多くなっているため、どうしても参加者が少なくなってしまうことが課題である。1学期にもう少し多く研究授業を実施していく必要がある。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組内容④【 施策 3 道徳心・社会性の育成】 思いやりの心、協力し合う態度を育成し、自他の心身を大切にする心を育てる 道徳授業の実践と子どもたちが「考え・議論する道徳」に取り組む。 (道徳教育の推進)		B
指標 「総合的な学習」「道徳」の時間などを十分活用できるように、人権・道徳教育委員会の充実や進路委員会との連携を図る。年間 30 時間以上の道徳実施。		
年度目標の達成状況の結果と分析		
④【 施策 3 道徳心・社会性の育成】 (道徳教育の推進) 道徳科の全面実施に向けて、各学年とも前年度より大幅に時間数の確保ができた。また大阪市が推進している読み物教材に特化した授業展開もできた。		
次年度への改善点		
④【 施策 3 道徳心・社会性の育成】 (道徳教育の推進) 時間数の確保により教材研究などの担任の負担がより大きくなった。次年度は担任の負担を軽減するとともに、全教員で道徳に関わり取り組めるような形を作っていきたい。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組内容⑤【 施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援 】 学校図書館の活用として、導入になっている「読書通帳機」の活用を図る。 通帳活用率を全生徒の30%以上となるよう普及を図る。 読書量の増加率を前年比10%以上を目指す。(学校図書館の充実)		C
指標 数値目標設定の検証を図り、図書館貸出図書冊数などの稼働率などデータ考査も行う。		
取組内容⑥【 施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援 】 伝統的地域（町会連合）行事である、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに生徒自ら地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する。 (保護者や地域住民に開かれた学校園の運営)		B
指標 地域行事のソフトボール大会の参加率を前年度よりあげ、地域行事との連携を深める。		
年度目標の達成状況の結果と分析		
⑤【 施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援 】(学校図書館の充実) コーディネーターや補助員と連携をはかって、閉館したり他の教員の手を煩わすことなく、図書館用管理ソフトを2学期から運用することができた。 朝の読書も週3回定着しており、休み時間にも読書している生徒の姿が頻繁にみられる。読書が日常のものになっていると感じられる。		
⑥【 施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援 】 地域、学校が連携して行う伝統を継承し今年度もソフトボール大会、かるた大会・もちつき大会を実施した。参加生徒数の減少とともない、参加チーム数も3年間で半減している。地域の子どもと大人を繋ぐ伝統は守っていく必要があると考えているが今後、地域行事の参加の在り方を検討する必要があると考えている。子どもたちと地域社会とのつながりを密にできるような行事の企画、参加意欲の高まる工夫を今後の課題としたいと思う。部活動では、地域の駅伝大会、区民フェスタなど参加することができている。		

次年度への改善点

⑤【施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援】(学校図書館の充実)

図書管理ソフトの導入を優先したため、読書通帳機の導入が遅れている。図書ボランティアとの連携もはかりつつ早く運用を開始しなければならない。また、図書管理ソフトの導入は予想より早く完了したので効果的に活用できるようにしていきたい。

⑥【施策7 地域に開かれた学校作りと生涯学習の支援】

土曜授業の回数が減少し、より地域の方々とのかかわりについて検討していく必要がある。

生徒、教職員も共に地域づくりの観点を持ち、地域の構成メンバーである意識づけをさせていきたいと考えている。防災訓練などでは、中学生は地域の重要な役割になっていることを学校教育活動でもしっかりと指導し、地域社会の一員であることを自覚させたいと思う。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成 状況
取組内容⑦【 施策 4 国際社会において生き抜く力の育成】 継続して本校姉妹校（台湾）および交流提携校（オーストラリア）との交流を継続、 深化させる。台湾とは相互派遣交流、オーストラリアとは派遣交流を実施する。 交流を通して、英語リーダー育成を図り、英語学力向上を目指す。（英語教育の強化）		B
指標 台湾、オーストラリア交流の実施。英語検定受験者の年間100名以上を目指す。		
年度目標の達成状況や取組の結果と分析		
⑦【 施策 4 国際社会において生き抜く力の育成】（英語教育の強化） 台湾生徒とともにイングリッシュヴィレッジの訪問等、年々交流をさらに深めることでできている。		
次年度への改善点		
⑦【 施策 4 国際社会において生き抜く力の育成】（英語教育の強化） 交流において、受け入れ家庭の偏りなど関わる生徒が少なくなっている現状があるので、国際交流 についてさらに周知していく必要がある。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成 状況
取組内容⑧【 施策6 健康や体力を保持増進する力の育成 】 保健だよりや教科と連携し、朝食の大切さを知らせ、毎日食べる生徒が90%以上にする 保健委員会活動を活発化し、手洗い実験・食育・AED・熱中症対策講習会などを 実施することで健康意識を高める。 <div>(健康に関する現代的課題への対応・食育の推進)</div>		A
指標 保健だよりを年6回以上発行する。朝食調査を学期に1回実施する。		
取組内容⑨【 施策6 健康や体力を保持増進する力の育成 】 この時期に発育・発達する骨、筋肉、呼吸・循環器に重点を置き、より一層の発育・ 発達を図る。 <div>(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</div>		A
指標 休み時間内に授業をスタートし、毎時間ウォーミングアップで各学年充分な ランニングと補強運動を行い、授業時間と運動量を確保する。		
年度目標の達成状況や取組の結果と分析		
⑧【 施策6 健康や体力を保持増進する力の育成 】(健康に関する現代的課題への対応・食育の推進) 毎月の目標や健康に関する記事を掲載した保健だよりを8回発行した。前後期の保健委員会を通し て、今年度も教科・地域および住吉区内の中学校と連携しながら積極的に取り組みを実施した。生 徒が委員会活動を「やらされている」と感じるのではなく、自主的に考え、行動を起こし、やりが いをもって周囲への啓発活動をすすめることができた。		
⑨【 施策6 健康や体力を保持増進する力の育成 】 充分な運動量を確保できた。(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)		
次年度への改善点		
⑧【 施策6 健康や体力を保持増進する力の育成 】(健康に関する現代的課題への対応・食育の推進) 前後期とメンバーが入れ替わるため、継続的な取り組みがむずかしく、どうしても単発の取り組み となる。メンバーが入れ替わっても引き継げるよう工夫しながら、今後もPTAや地域・教科と連携 して取り組んでいきたい。また、食育については個別の家庭の状況が大きく影響されるため、全体 指導に加えて個別指導をどのようにすすめていくか今後検討していきたい。		
⑨【 施策6 健康や体力を保持増進する力の育成 】 来年度は、より集合をはやくすることを心がけ、今年度より運動量がふえるようにする。 また個人の補強運動の強度をあげる。 <div>(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</div>		

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価はおおむね妥当である。

「学力の向上」に関しては、概ね期待通りの結果であった。「健康・体力の保持増進」については、若手の先生が増え、授業や部活動で熱心な指導、さまざまな取組を実施していただいた。PTA保健委員会との連携も進んでいる。また、「全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や「大阪市統一テスト」の結果について、引き続き非常に好い結果である。来年度も好い結果を維持していただきたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

全市共通目標（中学校）

- ・平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・平成29年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回答の割合を95%以上にする。
- ・平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒の数を前年度より減少させる。
- ・平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合を98%以上とする。
- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上とする。
- 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。
- 平成29年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合を90%以上とする。

全市共通目標（中学校） 評価

- ・平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合は100%に達した。効果的で即時的な対応ができている。
- ・平成29年度末の校内調査における、「学校の決まり、規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、さらに詰めて行きたい。
- ・平成29年度末の校内調査において、暴力行為の発生はなく、新たな不登校に発生も見られないので順調に経過した。

学校園の年度目標 評価

- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について肯定的回答の割合は、ほぼ90%に達しているので、さらに詰めて行きたい。
- 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上は、ほぼ達成した。

- 平成２９年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは学校生活を楽しんでいますか」の項目について肯定的回答の割合は８５％で、目標９０％以上に近づける努力をする。
- 平成２９年度の学校アンケート（保護者対象）における「子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしていますか」の項目について肯定的回答の割合は８５％で、目標９０％以上を継続する。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

全市共通目標（中学校）

- ・平成２９年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- ・平成２９年度の中学校チャレンジテストにおける正答率５０％以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３％程度減少させる。
- ・平成２９年度の中学校チャレンジテストにおける正答率７０％以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３％程度増加させる。
- ・平成２９年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成２９年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力（筋力面）の平均記録を０．２ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・平成２９年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を５０％以上に向上させる。
- ・平成２９年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を７５％以上にする。
- ・平成２９年度の生徒アンケートにおける「授業の内容が理解できている」と答える生徒の肯定的割合を７０％以上にする。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成２９年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を７３％以上にする。

【その他―地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する。

全市共通目標（中学校） 評価

- ・平成２９年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- ・今年度のチャレンジテスト（３年生）については、ほぼ目標を達成しており、大阪府平均を全体でも上まっている。学習姿勢の維持を継続させたい。
- ・平成２９年度の校内調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるという目標はほぼ前年並みであった。引き続きの取組み課題とする。
- ・平成２９年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である握力（筋力面）の平均記録を０．２ポイント向上させるについては、結果が未着となっている。

学校園の年度目標 評価

- ・平成29年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を50%以上に向上させるについては、今年度少しであるが上回った。引き続き必要性の指導に取り組む。
- ・平成29年度の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」と答える生徒の肯定的割合を75%以上にするについては、ほぼ80%となり改善が見られた。
- ・朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで平成29年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を73%以上については、80%となり意識向上が見られた。読書活動の充実を図る。

【その他－地域行事への積極的参加】

本校は伝統的地域（町会連合）行事を有する。中学生を対象としたものでは、ソフトボール大会、かるた餅つき大会、防災訓練、などに地域構成メンバーの自覚に立ち積極的に参加する姿が見られた。

3 今後の学校運営についての意見

- 今後も生徒のために、学力の向上、道徳心・社会性の育成、健康・体力の保持増進、特別支援教育の充実等に取り組んでいただきたい。
- 「教員の業務改革」と「部活動の在り方」の中、教員と生徒との距離感が広がらないよう、限られた時間の中でしっかりとかわっていただきたい。
- 学校元気アップ地域本部との連携をさらに進め、学校・生徒のニーズにあわせて取り組みいただきたい。

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 平成29年度の調査結果の概要

区分	結果
① 暴力行為の発生件数(件)	4
② いじめの認知件数(件)	11
③ いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	100
④ 小・中学校における不登校児童生徒数(人)	26
⑤ 高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑥ 高等学校における中途退学者数(人)	

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	暴力行為が行われやすい休み時間などの時間帯で教員による巡視強化を図る。また、学警連絡会などで近隣の学校や関係諸機関と連絡・連携を密にし、他校生との接触がないように指導しているがインターネット SNS の活用でつながりが深まっていくことが多くなっている。その為、校内でも SNS の会社に来ていただき、コミュニケーションの本質をついた指導をしていた。今後益々、SNS、インターネットによるトラブル、課題が山積することが予測される。倫理観、価値観を持って活用できるように指導を進めていきたいと思う。
② いじめの状況等	学期始めにクラス担任が生徒一人との教育相談の時間をつくり悩みや相談できる環境をつくっている。また、大阪市が設定した「いじめを考える日」や、学年集会等でいじめに関する指導を定期的に行っている。年間二回のいじめの実態調査をして、現状把握に努めている。スマートフォン、インターネットの普及でいじめ問題も見えにくくなることが予測される。生徒、保護者、教職員の人間関係作りが大いに大切になってくると考えている。
③ 小・中学校における不登校の状況等	毎月の主任会、生指部会、職員会議などで不登校生徒の状況を報告している。また、年2回不登校生徒現況報告会を開催し、生徒が不登校になったきっかけや登校できるようになり改善されたケースなど報告しあい、教職員全体で共通理解の場を設けている。 不登校の生徒の家庭的な背景に迫り、理解して学校だけでは解決できない事案、学校だけに来るという考えだけではなく、社会のありとあらゆる資源である関係諸機関を活用して、少しでも子どもたちの成長につながるように連携を進めていきたいと考えている。
④ 高等学校における長期欠席の状況等	
⑤ 高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること